

奈良公園内にある奈良八重桜石碑について

川端一弘

奈良公園にはナラノヤエザクラに関して三ヶ所に石碑（明治・大正・昭和各時代に創建）があります。旧興福寺勧禅院東円堂跡地になる現登大路駐車場にある八重桜石碑には「八重桜古蹟 明治九年六月 博覧会社建」とあり、この由来については拙論（2007）に紹介しました。

また若草山麓北部にある「奈良七重七堂伽藍八重桜 応需抱一書」とある石碑は松尾芭蕉の石碑研究家が種々推量していますが、三好学の資料によりナラノヤエザクラを天然記念物に推薦した岡本勇治の寄贈により建てられたことを証明いたしました。

新公会堂南側には「八重桜 正門内」と陰刻された石碑があります。この石碑に由来についてはまったく知られていません。しかし拙論（2007）に紹介しました昭和10年5月5日の大阪朝日新聞奈良版に公会堂のナラノヤエザクラ記事があります。その内容は「これらのうち県公会堂のは根廻り五尺余といふ老木、二号館前に二本もあって（中略）とくに公会堂の分は天然記念物の指定方を申請することになった、」云々とあります。この記事から石碑はこの老木を示したものと推論できます。すでに現在この老木はなくなっておりますが石碑のみが残ったものではないでしょうか。

公園内石碑の三ヶ所ともその由来は解明できましたが現在はまだ由来が紹介されず放置されています。とくに新公会堂の石碑は由来が忘れられ雑然と扱われています。ナラノヤエザクラはカスミザクラと同じく比較的短命で大木はないです。当寺の木々は枯死してすでに無くなっております。しかし石碑は歴史的背景を持っており、そのことを紹介することは当寺の人々の姿を彷彿とさせ奈良公園の重みを増す事項ではないでしょうか。

同時に石碑は『奈良公園の植物』著者である北川先生が「この季節には人々の興味はサクラからすでに離れており、花見という意識はほとんどない。」と指摘されているこのサクラを人々に見せる一助になりましょう。小清水卓二氏が間違った三好学発見説を流布させたためナラノヤエザクラは不幸な半世紀を経ました。すでに小清水氏の名前すら知らない世代が多い現在、改めて奈良公園の明治・大正・昭和三代の魅力を紹介する石碑の存在を再認識したいものです。